

## 4. 活動報告

### (1) 外部評価委員会

#### ① 令和4年度第1回外部評価委員会

日時：令和4年10月14日（金）13時30分～17時00分

会議形式：JAMSTEC 横浜研究所および Zoom

議事：

1. 文部科学省、外部評価委員長、研究代表より一言
2. 各課題について、プロジェクトの計画とこれまでの成果報告
  - (1) サブ課題1 地殻活動情報創成研究 海洋研究開発機構 小平秀一  
サブ課題1サブ(a) 防災科学技術研究所 汐見勝彦  
サブ課題1サブ(b) 東北大学 太田雄策  
サブ課題1サブ(c) 海洋研究開発機構 堀 高峰
  - (2) サブ課題2 地震防災情報創成研究 防災科学技術研究所 藤原広行  
サブ課題2サブ(g) 防災科学技術研究所 中村洋光  
サブ課題2サブ(e) 名古屋大学 平山修久  
サブ課題2サブ(f) 東京大学 廣井 悠  
サブ課題2サブ(d) 京都大学 矢守克也
  - (3) サブ課題3 創成情報発信研究 防災科学技術研究所 高橋成実
3. 総合討論、総評
4. 事務連絡・今後の予定等

#### ② 令和4年度第2回外部評価委員会

日時：令和5年3月27日（月）13時00分～17時30分

会議形式：JAMSTEC 横浜研究所および Zoom

議事：

1. 文部科学省、外部評価委員長、研究代表より一言
2. 各課題について、プロジェクトの計画とこれまでの成果報告
  - (1) サブ課題1 地殻活動情報創成研究 海洋研究開発機構 小平秀一  
サブ課題1サブ(a) 防災科学技術研究所 汐見勝彦  
サブ課題1サブ(b) 東北大学 太田雄策  
サブ課題1サブ(c) 海洋研究開発機構 堀 高峰
  - (2) サブ課題2 地震防災情報創成研究 防災科学技術研究所 藤原広行  
サブ課題2サブ(g) 防災科学技術研究所 中村洋光  
サブ課題2サブ(e) 名古屋大学 平山修久  
サブ課題2サブ(f) 東京大学 廣井 悠  
サブ課題2サブ(d) 京都大学 矢守克也
  - (3) サブ課題3 創成情報発信研究 防災科学技術研究所 高橋成実
3. 総合討論、総評
4. 事務連絡・今後の予定等

③ 外部評価委員名簿

委員長	土井 恵治	土佐清水市国立公園*ジオパーク推進課 ジオパーク専門員
委員	谷岡 勇市郎	北海道大学大学院 理学研究院地震火山研究観測センター 教授
委員	吉岡 祥一	神戸大学 都市安全研究センター 教授
委員	加藤 孝志	気象庁 地震火山部管理課 課長
委員	能島 暢呂	岐阜大学 工学部社会基盤工学科 教授
委員	久田 嘉章	工学院大学 建築学部まちづくり学科 教授
委員	香川 敬生	鳥取大学大学院 工学研究科 教授
委員	坂東 淳	徳島県 南部総合県民局 局長
委員	山崎 登	国土舘大学 防災・救急救助総合研究所 教授

(2) 全体会議

① 令和4年度 第1回全体会議

日時：令和4年10月3日（月）13時30分～16時45分

会議形式：オンライン開催

議事：

1. 研究代表の挨拶
2. 各課題の中間報告  
サブ課題1  
サブ課題2  
サブ課題3
3. 総合討論・まとめ

② 令和4年度 第2回全体会議

日時：令和5年3月14日（火）12時30分～15時50分

会議形式：オンライン開催

議事：

1. 研究代表の挨拶
2. 各課題の中間報告  
サブ課題2  
サブ課題3  
サブ課題1

### (3) シンポジウム

#### ① 防災対策に資する南海トラフ地震調査研究プロジェクト

##### 第2回シンポジウム「どうする？ 南海トラフ地震」

日時：令和5年3月10日（金）13：00～16：30

会場：イイノカンファレンスセンター Room A

（東京都千代田区内幸町 2-1-1）

※YouTube でライブ配信

主催：防災対策に資する南海トラフ地震調査研究プロジェクト  
プログラム：

13：00～13：05 開会挨拶

文部科学省 研究開発局 地震・防災研究課 課長 郷家 康徳

13：05～13：15 全体概要紹介

プロジェクト代表 海洋研究開発機構 小平 秀一

13：15～15：00 【第1部】 トピック紹介

南海トラフ高精度地殻活動モニタリングの実現に向けて

防災科学技術研究所 汐見 勝彦

南海トラフでの通常と異なる現象後の推移予測に向けて

海洋研究開発機構 堀 高峰

南海トラフ巨大地震発生の多様性を考慮した地震防災基盤シミュレータの開発

防災科学技術研究所 中村 洋光

津波避難の困難度の評価システム「逃げトレ View」の開発

京都大学 矢守 克也

周波数特性・継続時間が異なる地震動を用いた軟弱地盤上に立地する

河川堤防の耐震性再照査

名古屋大学 中井 健太郎

教育現場および地域コミュニティにおける防災教育を通じた

人材育成手法の検討

香川大学 野々村 敦子

15：15～16：25 【第2部】 コメンテーターによる総合討論

中川 和之(時事通信社 解説委員)\*総合進行

山岡 耕春(名古屋大学大学院 環境学研究科 附属地震火山研究センター 教授)

今村 文彦(東北大学 災害科学国際研究所 所長 / 教授)

川崎 弘佳(高知大学 教育学部 非常勤講師 / 元公立小学校 校長)

野本 粹浩(香川大学 四国危機管理教育・研究・地域連携機構 特命教授)

16：25～16：30 閉会挨拶

外部評価委員会 委員長 土井 恵治

参加数：242人（YouTube 視聴件数を含む）



小平プロジェクト代表による全体概要紹介の様子



【第1部】トピック紹介の様子

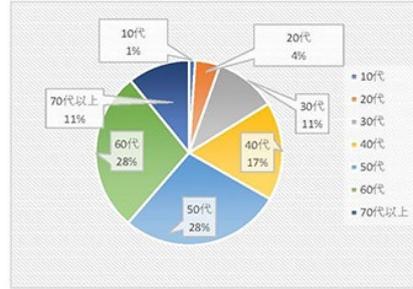


【第2部】コメンテーターによる総合討論の様子

防災対策に資する南海トラフ地震調査研究プロジェクト 第2回シンポジウム アンケート集計結果

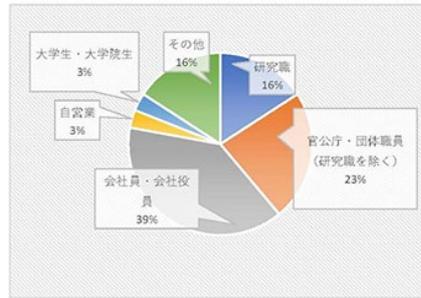
年代

選択項目	人数	構成比
10代	1	1.0%
20代	4	4.2%
30代	10	10.4%
40代	16	16.7%
50代	26	27.1%
60代	26	27.1%
70代以上	10	10.4%
未回答	3	3.1%
計	96	



ご職業

選択項目	人数	構成比
研究職	15	15.6%
官公庁・団体職員 (研究職を除く)	22	22.9%
会社員・会社役員	37	38.5%
自営業	3	3.1%
大学生・大学院生	3	3.1%
高校生	0	0.0%
その他	15	15.6%
未回答	1	1.0%
計	96	

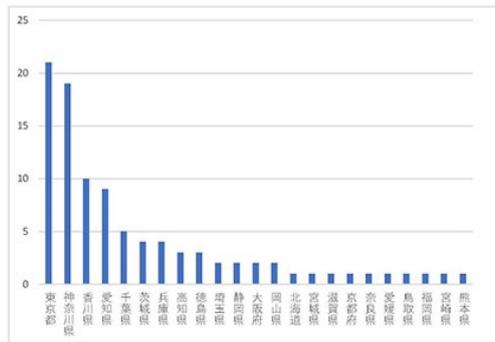


1

参加者アンケート結果 その1

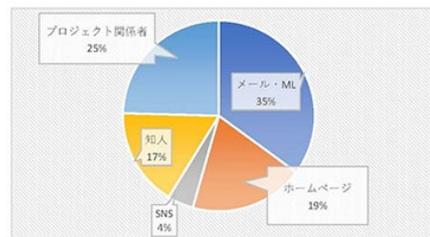
お住まいの都道府県

選択項目	人数	構成比
東京都	21	21.9%
神奈川県	19	19.8%
香川県	10	10.4%
愛知県	9	9.4%
千葉県	5	5.2%
茨城県	4	4.2%
兵庫県	4	4.2%
鹿児島県	3	3.1%
徳島県	3	3.1%
埼玉県	2	2.1%
静岡県	2	2.1%
大阪府	2	2.1%
岡山県	2	2.1%
北海道	1	1.0%
宮城県	1	1.0%
滋賀県	1	1.0%
京都府	1	1.0%
奈良県	1	1.0%
愛媛県	1	1.0%
鳥取県	1	1.0%
福岡県	1	1.0%
宮崎県	1	1.0%
熊本県	1	1.0%
計	96	



シンポジウム開催をどこで知りましたか？(複数回答)

選択項目	人数	構成比
メール・ML	40	35.1%
ホームページ	22	19.3%
SNS	5	4.4%
知人	19	16.7%
プロジェクト関係者	28	24.6%
計	114	

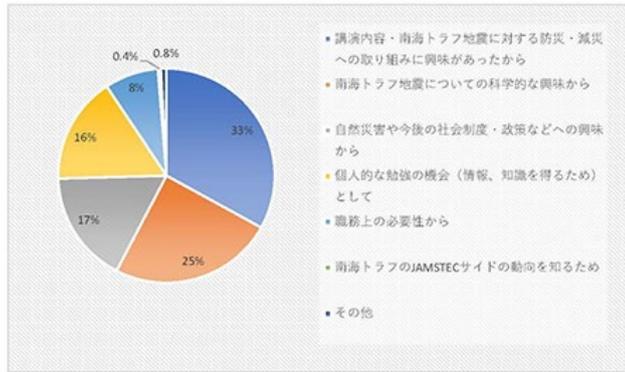


2

参加者アンケート結果 その2

参加理由・動機は何ですか？(複数回答)

選択項目	人数	構成比
講演内容・南海トラフ地震に対する防災・減災への取り組みに興味があったから	78	33.1%
南海トラフ地震についての科学的な興味から	58	24.6%
自然災害や今後の社会制度・政策などへの興味から	40	16.9%
個人的な勉強の機会(情報、知識を得るため)として	38	16.1%
職務上の必要性から	19	8.1%
南海トラフのJAMSTECサイドの動向を知るため	1	0.4%
その他	2	0.8%
計	236	

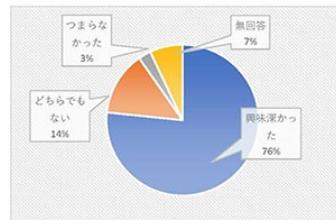


参加者アンケート結果 その3

講演内容はいかがでしたか？

興味深かった	どちらでもない	つまらなかった	無回答
74	13	3	7

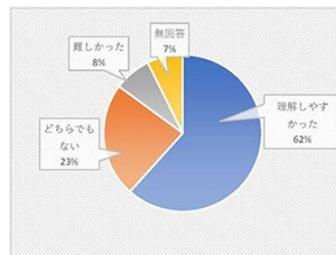
※6講演と総合討論の平均で集計しています



難易度はいかがでしたか？

理解しやすかった	どちらでもない	難しかった	無回答
59	23	7	7

※6講演と総合討論の平均で集計しています

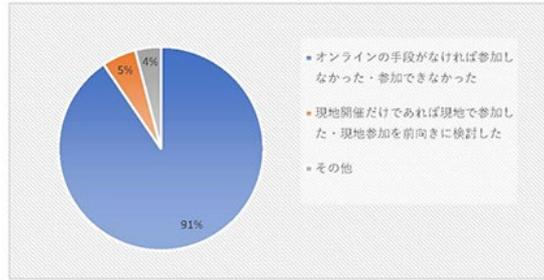


参加者アンケート結果 その4

開催が現地のみだったらこのシンポジウムに参加しましたか？

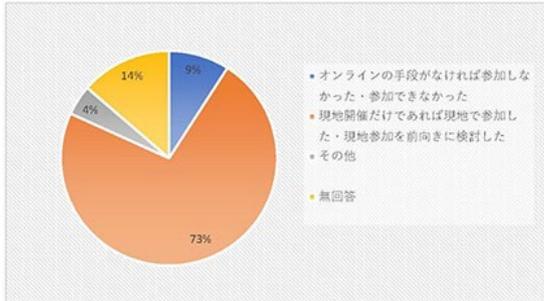
オンライン参加者

選択項目	人数	構成比
オンラインの手段がなければ参加しなかった・参加できなかった	67	90.5%
現地開催だけであれば現地で参加した・現地参加を前向きに検討した	4	5.4%
その他	3	4.1%
無回答	0	0.0%
計	74	



現地参加者

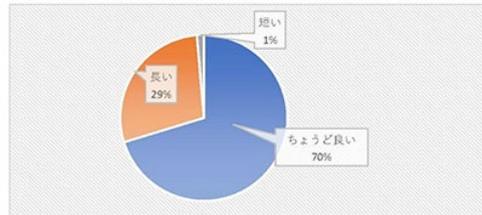
選択項目	人数	構成比
オンラインの手段がなければ参加しなかった・参加できなかった	2	9.1%
現地開催だけであれば現地で参加した・現地参加を前向きに検討した	16	72.7%
その他	1	4.5%
無回答	3	13.6%
計	22	



参加者アンケート結果 その5

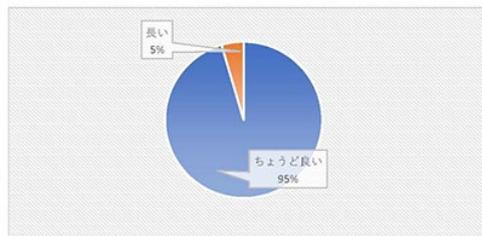
所要時間（オンライン）

選択項目	人数	構成比
ちょうど良い	52	70%
長い	21	28%
短い	1	1%
計	74	



所要時間（現地参加）

選択項目	人数	構成比
ちょうど良い	21	95%
長い	1	5%
短い	0	0%
計	22	



参加者アンケート結果 その6



② ぼうさいこくたい 2022

開催期間：令和4年10月22日～10月23日

開催場所：JICA 関西

主催：防災推進国民大会 2022 実行委員会

(内閣府、防災推進協議会、防災推進国民会議)

出展概要：JICA 関西の会場で本プロジェクトを紹介した。



プロジェクト紹介のプレゼンブースの様子



展示会場の様子

## プログラム

P-30

REAL

企業向け 自治体向け

プレゼンテーション

### 防災対策に資する南海トラフ地震調査研究プロジェクト

主催団 防災対策に資する南海トラフ地震調査研究プロジェクト  
体：

10/22 (土) - 10/23 (日) 終日 場所：JICA関西

プロジェクトの成果等をポスターや動画で紹介し、動画はHPでも公開します。プロジェクトでは史料調査や地震津波履歴調査も行っており、それらを出展の柱として「災害の経験と教訓」を理工学的に紹介します。企業、自治体、一般の皆様へ災害情報の活かし方や自ら判断することの重要性を理解していただき、災害への備えをあらたに考えていただくきっかけを提供します。



#### メッセージ

高難関の巨大地震が危惧される南海トラフ地震の防災減災を目指すプロジェクトです。地震地殻活動を即時的に把握するシステムを開発し、命と社会を守る研究を進め、情報発信の任りを果たしています。皆様の防災減災対策にプロジェクト成果が役立つよう、皆様のお声をお聞かせ下さい。災害への備えを一緒に進めて行きましょう。



#### 防災への取組紹介

本プロジェクトは、特報推察を取り込んだ地震津波のハザードやリスクの防災情報基盤を創出し、命・産業・都市機能を守る研究や、南海トラフで通常と異なる活動があった際に即時的に把握、情報発信するための地震活動・プレート応答すべりモニタリングシステムの構築等を行っています。これら成果も踏まえた情報発信検討会では自動共動公助の空層スケールと臨時情報発信から発災後の復興までの特報スケールから、自治体や住民、企業の防災減災対策に繋げる情報発信の圧り方を探り、連携を深めています。防災学習も積極的に実施し、アンケートを活用した災害情報リテラシー向上を図っています。代表機関は海洋研究開発機構、参加機関は防災科学技術研究所、東北大、東京大、産業技術総合研究所、京都大、名古屋大、香川大、徳島大等です。



#### 主催団体名 防災対策に資する南海トラフ地震調査研究プロジェクト

部署 海洋研究開発機構 研究推進部 研究推進第2課  
TEL 045-778-5762  
メール [nankai-jimu@jamstec.go.jp](mailto:nankai-jimu@jamstec.go.jp)  
ホームページ <http://www.jamstec.go.jp/j/>

ぼうさいこくたい HP 出展ページ : <https://bosai-kokutai.jp/2022/p-30/>